

江戸時代のリサイクル

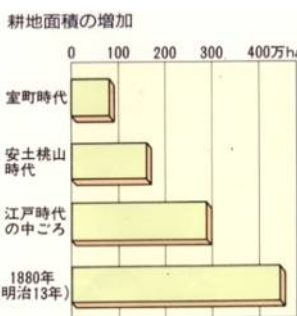


江戸時代には、今日の私たちが捨ててしまうようなものも修理して、使い続けるのが当たり前でした。人々は、稲の茎や葉にあたるわらも利用しています。わらは日よけのための笠や雨をふせぐための蓑、はきものとしての草鞋などに用いられています。右は馬にはかせた草鞋です。馬にはかせたときは4~5km程度で使えなくなってしまうますが、道に捨てられたはきものは集めて堆肥にしたのです。また、人の大小便(糞尿)や生ゴミなども大切な肥料になりました。江戸近郊の農民は、自分の家の糞尿だけでは足りず、江戸の町まで出かけて糞尿を集め、お返しに米や野菜を渡すようになっています。17世紀後半には、大阪や江戸で人の糞尿を専門にあつかう仲買人や問屋ができたほどです。そのため、江戸をはじめ日本の都市は糞尿を処理するための施設が必要なかったのです。当時のヨーロッパの都市では、糞尿が住居のまわりに捨てられていたから、それらに比べて江戸の町はとても清潔だったのです。



農業の発達

幕府や藩は年貢(米)で財政をまかなっていたため、農業にとくに力をいれています。江戸時代中ごろの耕地面積は、豊臣秀吉のころの約2倍近くにまで増えています。用水路をつくって新田開発を積極的に行った結果です。

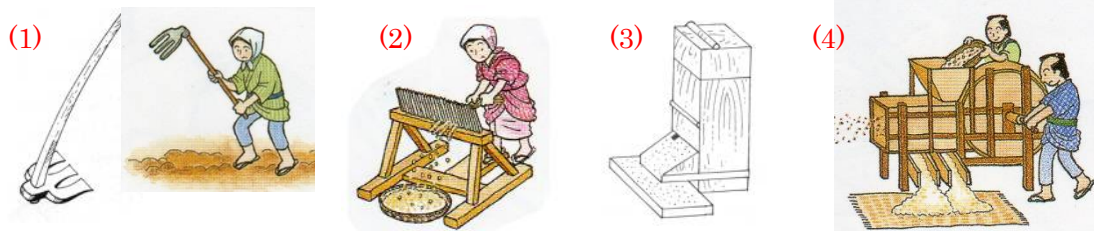


旧国名地図

※現在の県境と旧国名は同じですが、より分割されています。
北海道→蝦夷
沖縄→琉球



また、田畑をより深く耕することができるようになった(1…現在の岡山県西部の地名をつけた農具名)や、稲を穂だけにする脱穀に使う(2…歯の部分からつけた農具名)、金網を通して米粒の大きさを選別する(3…農具名)、風でもみ殻をふき飛ばして米粒だけを取り出す(4…農具名)などが使われています。これらの農具は17世紀の後半から全国に広がっています。



つまり、農業生産を大きく向上させたのがこの江戸時代です。そして、こうした農業知識や栽培技術の広まりに宮崎安貞が書いた(5…右資料。漢字で?書)という書物が大きな役割をはたしています。

また、この時代には大豆・綿の実・亜麻の種・菜種(アブラナのこと。食用や灯り用の油をとる)・落花生などの油をしぼった残りの(6)や、イワシを干して肥料にした(7…ひらがなで)などの金銭を払って手に入れる肥料のことをいう(8…漢字で)ができています。

また、ほかの人に売って現金を得るために栽培したものを商品作物といいますが、綿・麻・菜種・茶・たばこ・藍などの栽培はこの時代に広まったのです。藍(右)とは、葉や茎から染料をとるタデ科の一年草のことで、虫食いなどを防ぐ殺菌効果もあったためにさかんに使われました。紅花とともに古代から利用されてきましたが、江戸時代には阿波(徳島県)・摂津(大阪府)を中心にさかんに栽培されて大量に売買されています。

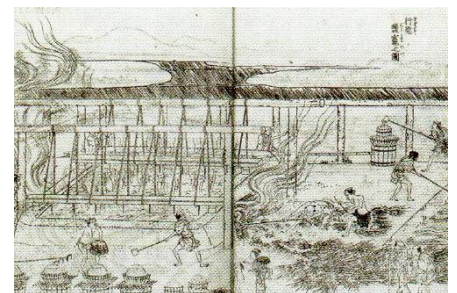
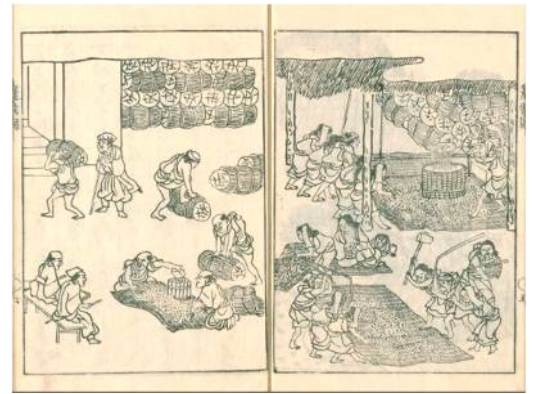
さらに、茶を飲む風習は、臨済宗を開いた栄西(鎌倉時代)が宋から茶の種を持ち帰ってきたことから始まり広まっています。やがて畿内(京都に近い国)・駿河(静岡県…静岡茶)・武蔵地方(東京都・神奈川県東部・埼玉県…狭山茶)で栽培されるようになり、江戸時代中期ごろには庶民の飲み物として普及し、大規模な取引が行われるようになっていきます。

タバコは、安土桃山時代にポルトガル人が伝えたナス科の植物です。高い価格で取引されるため、各地で栽培されて銘柄品も生まれています。江戸時代の中ごろからは藩の奨励もあってさかんに栽培されています。蚕から生糸の原料の繭を取る養蚕も幕府や藩の奨励があり、農家の副業として信濃(長野県)・上野(群馬県)・丹後(京都府)などで発展しています。江戸時代後期の開国以降は、日本の重要な輸出品になります。

木綿が日本で栽培されるようになったのは(9…?)時代の頃でしたが、江戸時代の中ごろには東北・北陸以外のほとんどの地域で生産されるようになっていきます。このことで、人々の環境も衛生的になり平均寿命も飛躍的に伸びています。また、木綿栽培のための肥料に油かすが使われています。そして、木綿の前に使われていた(10…漢字で)は、たくて丈夫な性質を生かして綱・網・かや・畳糸などに使われるようになっていきます。

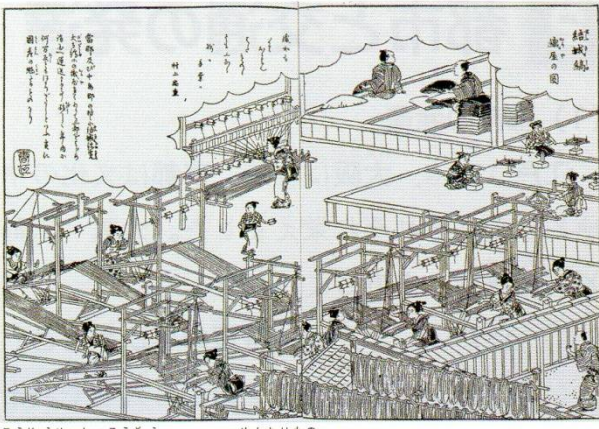
漁業の発達

ほしかをつくるために、地引き網を使った漁業が(11…千葉県)などでさかんになりました。さらに、瀬戸内海沿岸や千葉県市川市行徳の(12…塩をつくるところ)で塩が生産されて各地に流通しています。



工業の発達

参勤交代などで財政が苦しくなった大名たちが、藩の収入を増やそうと特産物の生産に力を入れたため、織物・和紙・漆器などの手工業が各地でさかんになっています。



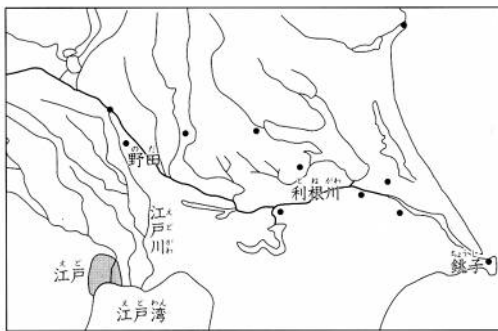
18世紀ごろ、問屋が農民に原料や道具、資金を貸して品物をつくらせ、それを引き取る問屋制家内工業が始まります。

問屋とは卸売業者のことです。生産者からまかされた品物を仲買人に売って手数料を取ってもらうける、今の商売のしくみをつくりあげています。

大商人たちは、このやり方を発展させ、自分の工場に農民や職人を集め、分業によって品物をつくらせる工場制手工業(13…カタカナで)という工場のしくみをつくっています。

左は工場の原型になった尾張国(愛知県)の織物工場です。

桐生(群馬県)や足利(栃木県)の絹織物、灘(兵庫県)の(14…特産品名)、野田(千葉県)の(15…調味料)などもこの方法で生産を高めています。



左地図はこの時代のしょう油の生産地を表したものです。生産地はこのように川の近くに位置しています。しょう油づくりがこのようなところでさかんになった理由を「原料と運送」の2つの観点から考えて答えなさい。…(記述1)

また、利根川はもともと現在の江戸川あたりを流れていました。それをこの時代に大規模な工事によって現在の流れに変えています。そのわけを答えなさい。…(記述2)

商業の発展

農業や手工業の発達は商業の発展をうながしました。有力な商工業者たちは(16…漢字で)という同業者の組合をつくり、幕府に税を納める代わりに営業を独占して大きな利益を得ていました。平安時代の後期から始まった油座や紙座などと同じような独占企業の仕組みです。

また、貸付や預金、為替などの現在の銀行に似た業務を行い、貨幣の交換(両替)をいとんだ商人たちを(17…漢字で)といい、こうした商売は大阪に多くありました。江戸ではおもに金貨(小判)を使い、大阪では銀貨を使ったためです。下の「越後屋」の絵の天井に「小判六十匁」とかかげられているのは、小判1枚でどれくらいの重さの銀と交換できるかという相場を客に示すためです。

「越後屋」



このころの豪商に、のちに財閥として大きな影響力をふるう商人たちがいます。伊勢国(三重県)出身の豪商の三井は三井高利の代に江戸・大阪・京都に進出し、「越後屋(今の三越)」で財をなしています。

当時の商売は1年間分の代金をまとめて払うため、「かけね」といって値段を高くつけて売るのがふつうでしたが、越後屋はそれを現金で売るかわりに値段を安くして庶民に支持されたのです。

越後屋の柱には「現金掛け値なし」と書かれています。これはどういう意味ですか。…(記述3…前の文がヒント)

ほかでは、大阪の豪商で酒造業や海運業で財をなし、19世紀末に鴻池銀行(のちの三和銀行)をつくる鴻池や、銅山経営に力をふるい別子銅山(愛媛県)を開いたほか、両替商・蔵元(蔵屋敷)で年貢米や特産物の管理や売買にあたった住友などです。今の銀行の名に続いています。

鉱業

鉱山を掘る技術も発達しています。新潟県の佐渡金山、島根県の石見銀山、栃木県の足尾銅山などで採掘が行われています。

都市の発達

① 政治の中心の江戸は、「将軍の(18…ひらがなで)」とよばれ、参勤交代で全国から大名や武士が集まっています。18世紀の始めには人口が100万人をこえる世界一の大都市になり、水道は神田上水だけでは足りずに、新しく玉川上水をひいています。また、江戸の人口のおよそ半分は武士で、あとは町人(職人や商人)たちでした。



② 経済の中心の大阪は、「天下の(19…右絵)」といわれ、全国の産物がこの地に集められています。とくに多かったのが米で、その米をたくわえておくために(19…右絵)とよばれる建物が川岸に建ち並んでいました。

「数千軒も軒をならべた問屋の蔵の白かべは、夜明けの雪のようだ。三角形に積み上げられた米俵は、まるで山がそのまま動いてきたようで、それを人や馬が運び出すには、雷がとどろくようだ。川舟はかぎりなく波に浮かんでいる。」…井原西鶴『日本永代蔵』



資料の下線のようなようすが見られたわけを「大阪に・・・」の書き出しで答えなさい。…(記述4)

このように、川岸に建物があるのは当時の輸送の中心が船だったためです。幕府や大名たちは大阪に年貢米や特産物を送り、現金にかえています。この時代の給料はすべて米で支給されていたため、ほかのものを買うための現金が必要だったのです。当時の大阪の人口は35万人以上といわれています。

③ 文化の中心が京都です。京都は794年の平安京から日本の都がおかれた日本を代表する古都です。これら江戸・大阪・京都の3つを三都といいます。

④ 大名の城を中心に形成された町を(20…漢字で?町)といいます。江戸・弘前・仙台・松本・名古屋・金沢・姫路・広島・山口・熊本など、現在の県庁所在地の多くがこうした町です。

⑤ 商業や貿易で栄えた港を中心に発達した町を(21…漢字で?町)といいます。長崎・博多・下関(山口県)・兵庫・酒田(山形県)・敦賀(福井県)・小浜(福井県)・大津(滋賀県)などの町です。

⑥ 五街道や脇街道におかれた宿場を中心に発達した町を(22…漢字で?町)といいます。品川・小田原(神奈川県)・三島(静岡県)・沼津(静岡県)や温泉で知られる群馬県の草津(温泉)などです。

⑦ 大きな寺院や神社を中心にして、参拝者を相手にした宿場や店によってつくられた町を(23…漢字で?町)といいます。観光都市の性格が強い町です。奈良・宇治山田(伊勢神宮がある三重県)・善光寺のある長野・日光(東照宮)・琴平(香川県)などの町のことで。

陸上交通の発達

幕府は、日本橋を起点とする五街道を定め、街道には1里(約4km)ごとに目印となる一里塚がおかれました。そして、主要街道の8～12kmごとには宿場が置かれ、宿泊所や輸送に使う馬などが用意されていました。その中で、大名や公家・幕府の役人のための宿場を(24…漢字で。取手市にもある)とよんでいます。

表の街道名を地図で確認して、漢字で答えなさい。

街道名	
日本橋～品川～太平洋側を通り京都へ	(25)
日本橋～千住～草加～古河～石橋～宇都宮～今市～日光	(26…?街道)
日本橋～千住～草加～古河～石橋～宇都宮～白河(福島県)	(27…?街道)
日本橋～高崎～軽井沢～塩尻～木曾 福島～草津(滋賀県)で東海道の合流	(28)
日本橋～内藤新宿～甲府～下諏訪～中山道に合流	(29…?街道)



江戸時代のおもな交通路



さらに手紙などを人が運ぶ(30…漢字で。左絵)によって通信も整備されています。しかし、幕府は江戸を守るために、街道の重要地点や領国の出入りに(31…右の?所)を設けています。ここでは人や物資の通行が規制され、通行手形が無いと通れません。さらに、ここの門は午前6時



から午後6時までしか開いておらず、それ以外の時間は通ることができません。もし、ここを通らないときは「(31)破り」として重い罰があたえられていました。とくに、江戸へ鉄砲を持ちこむことをいう(32…漢字で)、江戸から出ていこうとする武家の女性のことをいう(33…漢字で)にはきびしい取り締まりがありました。このようにきびしく取り締まったそのわけを答えなさい。…(記述5)



さらに幕府は、大軍で攻めてこられないように、大きな川に橋をかけていません。そのため、大雨で増水すると何日も川留となつて渡ることができなくなり、何日も待たされました。この時代の旅には大きな費用がかかったのです。「箱根八里は馬でも越すが、越すに越せない(34…?川)」と詠われた静岡県のこの川は天然の関所だったわけです。そのため、物資の輸送や旅の街道として江戸から京都までの距離は東海道の方が短いにもかかわらず、距離の長い中山道をあえて選ぶこともありました。

その理由を左のこのときのようなすをうかがい知ることができる「東海道五十三次」の絵を参考にして答えなさい。
…(記述 6)

水上交通の発達

船による交通がこの時代に発達しています。東北の米を、津軽海峡を通過して江戸や大阪に送る(35…前頁の地図を参照)航路や、下関や大阪に運ぶ西廻り航路などです。

こうした航路を開いて物資の大量輸送ができるようにしたのが川村瑞賢という人物です。

この人物はその功績によって、死の直前には旗本の身分になっています。

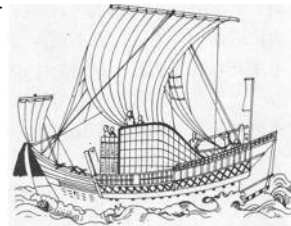
また、輸送には、積荷が落ちないように船べりに

菱形の垣をつけた(36…右絵)廻船や樽廻船(関西から江戸に酒などを

運ぶ)が使われ、大阪～江戸の間を定期的に往復しています。



さらに、蝦夷地(北海道)や東北・北陸のこんぶやさけ・にしんなどの産物は、(37…左の?船)によって大阪まで運ばれ、各地で売りさばかれています。帰りの船には米や酒・塩・木綿などが積み込まれたようです。また、米俵を馬で運んだときは1頭で2俵を運ぶのがやっとなのですが、右の(38…?舟)を使うと一度に20俵以上を運ぶこともできます。この川舟は底が平らで浅い川でも使うことができたため、利根川や淀川を多くのこうした舟が行き来したのです。このように、この時代のおもな輸送手段は舟でした。



復元された菱垣廻船



「越中富山の薬売り」が行商で用いてきた道具など

また、富山藩の2代目藩主は体が弱く、薬の製法に関心を持っていました。

あるとき、伝授してもらった薬がとてよく効いたため、各地に薬を売ることが奨励されたといわれています。全国を行商して回り、前に訪問したときに置いていった薬のうち、使った分だけの代金を受け取り、減った分は補充しておくのが「(39…旧国名)富山の薬売り」ですが、これに目をつけたのが薩摩藩です。富山藩が西廻り航路で蝦夷地(北海道)の昆布を多く扱っていたため、財政が悪化していた薩摩藩が、支配していた(40…?王国)から清へ昆布を輸出して、利益を得ようと考えたのです。



昆布が運ばれたルート

そこで、富山の薬売りに対して、薩摩藩に昆布を持ち込むことを条件に、薩摩藩での商売を許可します。さらに薩摩藩は、清から輸入した漢方薬の原料を富山の薬売りに供給したのです。このルートは現在、「昆布ロード」ともよばれています。

上方文化

大阪や京都のことを上方とよび、ここを中心に栄えた文化が(41…漢字で?文化)です。5代将軍徳川綱吉のころ(1700年前後)の元号が**元禄**のため、この名がついています。商業の発達を背景にした、活気のある華やかで人情味の豊かな文化で、日本の歴史で初めての町人文化です。

文芸

①(42…人物名を漢字で)が町人の生き生きとしたすがたを(43…漢字で)とよばれる小説に書きました。代表作に「**日本永代蔵**(1688)」・「**世間胸算用**(1692)」があります。



現在の人形浄瑠璃



②(44…人物名を漢字で)は、身分制度のもとで義理と人情の板ばさみに悩む人々を、人形芝居の(45…ひらがな可)や、出雲阿国が広めて町人に大きな人気になった(46…漢字で。中の絵参照)の脚本に書きました。代表作は「**曽根崎心中**」・「**国姓爺合戦**」です。

③連歌から五七五の**俳句**(俳諧)が生まれています。これをおこしたのが(47…左の人物名を漢字で)です。自然と人生を見つめる多くの句を詠んでいます。弟子とともに江戸を出発して、東北・北陸をまわり、現在の**岐阜県の大垣**にいたる間での5ヶ月余りの旅のようすを、文章と俳句でつづった「(48…作品名を漢字で)」は日本の古典文学の一つです。

絵画

本の挿絵などで人気を集めた(49…人物名。ひらがな可)が**浮世絵**(錦絵)を確立しました。浮世絵の初めは、右の**見返り美人図**のように肉筆で描かれており高価なものでした。



松尾芭蕉(左)と弟子



やがて、木版画で大量に刷ることができるようになってからは値段が安くなり、庶民でも買うことができるようになって普及しています。のちには、多色刷りの美しい浮世絵が作られるようになりました。浮世絵は**絵師**と**彫師**と**摺師**の三者による**分業**で作られています。



装飾画では、俵屋宗達が描いた左の「風神雷神神図屏風」が知られています。尾形光琳が描いた右の「紅白図屏風・燕子花図屏風」の装飾画も有名です。

建築(江戸時代初期のころ)



①簡素な数寄屋造と回遊式庭園との調和が見事な桂離宮(京都市)が知られています。もと桂宮家の別荘だったことからこのよび名がつけました。

徳川家康を祭った(50…漢字で)(栃木県)もこの時代の建築です。本殿は神社・仏寺の両方の特徴をもつ権現造で、桃山文化の特徴をもつ東照宮陽明門とともに国宝に指定されています。社殿は3代将軍の徳川家光が56万8000両の費用をかけて1636年に完成させたといわれ、世界遺産にも登録されています。



化政文化

江戸の商工業の発達にともない、文化の中心が上方から江戸に移ります。19世紀始めの11代将軍家斉のころの江戸を中心とした町人文化です。このころの文化・文政という年号をとって(51…?文化)といいます。元禄文化のような活気はうすれ、当時の社会不安を反映したこっけいや皮肉を楽しむ風潮が強い文化です。

文芸

①江戸時代後期に流行し、江戸庶民の生活や遊びのようすを会話中心にこっけいにえがいた小説が、(52…作者名)が著した「東海道中膝栗毛」(弥次郎兵衛と喜多八の失敗談の物語で右のその挿絵)です。滝沢馬琴が書いた「南総里見八犬伝」などの本も人気を集めています。



②

(53)

菜の花や 月は東に 日は西に

俳人で画家の(53…人物名)が絵のような句をよんでいます。

また、(54…人物名を漢字で)は、「おらが春」の作品に見られるように人間味あふれる豊かな句を残しています。

(54)

雀の子 そこのけそこのけお馬が通る

(55)

○役人の子はにぎにぎをよく覚え
※にぎにぎとは役人が受け取った賄賂のことです。

○侍が来ては買ってく高楊枝

(56)

○白河の清きに魚も住みかねて もとの濁りの田沼こひしき

※白河とは寛政の改革(1787～93)を進めた松平定信のことです。

○歌よみは下手こそよけれ 天地の動き出してたまるものかは

さらに、俳諧の形式で皮肉たっぷりに歌った(55…漢字で)や、和歌の形式でのことば遊びの(56…漢字で)といわれる歌が庶民に喜ばれています。

絵画

浮世絵(錦絵)は、この時期に最も町人の人気を集めています。(57…人物名)のえがいた美人画や東洲斎写楽の

美人画



役者絵



えがいた役者絵があります。

富嶽三十六景



富嶽三十六景



東海道五十三次



東海道五十三次



「富嶽三十六景」の作品で、雄大な自然を富士山とともに描いた(58…人物名)や、自然の中の人間の日常を「東海道五十三次」で描いた(59…人物名。安藤広重ともよばれる)などが、この文化の代表です。